

[巻頭企画]

確実な点検・整備で生まれる安全と経営的メリット



安全確保は運送事業者の責務です。事故を未然に防ぐために、まずは義務である定期的な点検・整備が不可欠です。また、これらを実際に行うことは、故障の回避や車両寿命の延長につながり、経営的メリットも生まれます。

そこで今回は、点検・整備の必要性から実施のメリット、夏場に特に気をつけたい点検のポイントを紹介します。

I. “面倒くさいから”と点検・整備を怠ると大きな損害に

ト ラックは毎日の生活を運び、国内経済を支える重要な役割を担っています。一方で、事故を起こすと被害が大きくなりやすいため、運送事業者は徹底した安全対策に努めなければなりません。そして、安全運行に向けて最も基本的な条件が、「確実な点検・整備の実施」になります。「面倒くさい」、「コストがかかる」と

いって点検・整備を怠ることは、車両故障のリスクだけでなく、それが引き金となって重大事故を招く可能性があります。事故は、経営的なダメージや取引先からの信頼失墜、さらには人命までを奪うことも十分にあるのです【表1】。点検・整備の実施は、会社の財産や命を守ることであることを再認識してください。交通事故の原因をみても、

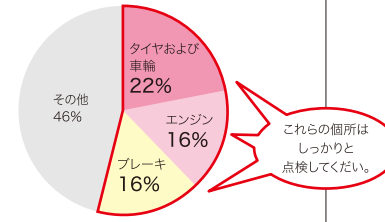
大部分はスピードの出し過ぎや不注意運転などの運転操作ミスです。しかし、車両の故障が交通事故の原因となることも少なからずあります。トラックの故障に起因する重大事故の装置別発生状況を見ると、タイヤや車輪、エンジン、ブレーキに関するものが5割以上を占めており【グラフ】、確実な点検・整備を実施していたら防げたのかもしれない。

【表1】トラック事故による損害の大きさ

直接損害	
■財物損害	車両、荷物、建築物、施設などの損害
■人身損害	ドライバーや同乗者の損害
■賠償損害	相手に加害し、対人賠償・対物賠償を負った損害

間接損害	
■事故処理経費	交通費、通信費、見舞品代、香典、訴訟弁護士費用など
■賃金ロス	入院、自宅療養、通院の賃金、現場処理、示談の人員費など
■収益低下	休車損害、代車料、休業損害、行政罰による損失など
■数値化不能損害	信用失墜、荷主企業喪失、企業イメージの低下、労働意欲の低下など

【グラフ】トラックの故障に起因する重大事故の装置別発生状況



出典：国土交通省「自動車運送事業用自動車事故統計年報(平成27年)」より作成

II. 点検・整備を行わなかった場合、経営上のデメリットが大

故 障の未然回避や事故防止のため、点検・整備の実施は不可欠です。しかしながら、実施状況は他と比べても十分であると言えない状況にあります【表2】。

また点検・整備を怠ると、さまざまな安全運行上・経営上のデメリットが発生することも認識しましょう。

【表2】事業用自動車の定期点検整備実施率

事業用自動車の種類	定期点検整備実施率※
トラック	53%
バス	90%
タクシー	87%

※：定期点検整備実施率＝対象車両の定期点検整備の延べ実施回数／(定期点検整備設定回数×対象車両数)

出典：国土交通省「事業用自動車の定期点検整備の確実な実施について(平成23年)」

点検・整備を怠ることで発生する、さまざまなデメリット

- デメリット①
路上故障が発生し「事故」の引き金に!
- デメリット②
臨時整備費の発生、燃費悪化など「コスト負担が増加」!
- デメリット③
納期遅れ、積荷の破損などによって「信頼失墜」!

- デメリット④
排出ガス濃度の上昇、黒煙排出など「環境負荷が増加」!
- デメリット⑤
故障が起因する事故で運送業界の「社会的評価が低下」!

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「事業用トラックの点検整備ハンドブック」

Ⅲ. 点検・整備の実施が生む、安全運行と大きな経営的メリット

先

ほどの点検・整備の未実施によるデメリットは、日常点検や定期点検など“当たり前のことを当たり前に”実施するだけで回避できるもの。下記に、点検・整備を実施することで生まれる、さまざまなメリットを紹介します。

メリット① 故障・事故の防止

確実な点検・整備からはじまる毎日の安全確保

点検・整備の確実な実施は、事故を防止するために欠かせません。これらを怠ったために、重大事故も発生しています。08年には、東名高速道路を走行していたトラックのタイヤが外れ、対向車線を走行してきた貸切バスのフロントガラスに衝突。バスのドライバーが亡くなるなど痛ましい事故になりました。

また夏場は、車両トラブルが多くなる季節。最も多くみられるトラブルが「オーバーヒート」ですので、冷却水の量をこまめにチェックしてください。路面温度も高くなるため、タイヤの空気圧が適正でなく低いまま走っていると、タイヤが過剰に熱をもってしまい、「バースト」してしまうことも。これらも日常点検で防いでいきましょう。

夏の車両トラブル、こうして防止！

- 暑いからといって日常点検を漫然と行わず、しっかりと実施。
- バーストやスリップ防止のため、タイヤの空気圧・溝の深さをチェック。
- リザーブタンクの冷却水量をこまめに確認して、つねに適正量をキープ。

メリット② コストの削減

さまざまな経営上のメリットをもたらす点検・整備

短期的には負担に見える点検・整備のコスト。しかし、より広い視野から経営上のメリットを考えると、下記にあげるようなさまざまなコスト削減効果があります。

点検・整備の励行による「コスト削減効果」

- 故障整備費の削減
未然に異常個所が発見でき、故障を増やすことなく整備費用を抑えます。
- 知らず知らずのうちに進む燃費悪化を防止
車両の整備不良による燃費悪化を防ぎ、燃料費の削減が可能です。
- 臨時入庫をなくし車両稼働率を向上
急な故障で整備工場へ入庫することがなくなり、車両稼働率が向上します。

メリット③ 信頼度の向上

故障のない、スムーズな輸送で信頼向上

車両故障や交通事故を起こすと、集荷・集配時間の遅滞を招くだけでなく、積荷へのダメージも十分考えられます。車両や積荷の損害賠償といったコスト負担はもちろん、荷主企業からの信頼を失い、業務のキャンセルや仕事の依頼が途絶えるといった事態も

あるでしょう。
日々の点検・整備に努め、「稼働を止めない」、「異常個所による故障を防止」することがスムーズな輸送につながり、荷主企業からの信頼獲得に結実します。

メリット④ 環境保全に貢献

定期的な点検・整備が環境保全に寄与

トラック輸送は、多少なりとも環境に負荷をかけていることは事実です。排出ガスのほか、走行時の振動や騒音なども環境問題のひとつです。運送業界ではこれらの課題に対し、徹底した取り組みで解決に努めています。

ドライバーの皆さんが省燃費運転を実践すれば、大気汚染防止につながるでしょう。これに加えて、

環境保全に効果的なアクションとして点検・整備も欠かせません。例えば、エアクリーナーの目詰まりを除去だけで燃費が改善、つまりCO₂の排出量が低減します。また、エンジンオイルの定期的な交換やタイヤの空気圧を適正に保つことで、燃費は良くなり、環境負荷の低減に貢献します。

メリット⑤ 業界イメージの向上

毎日の点検・整備が業界のイメージアップに貢献

点検・整備は、実施することで目に見えて大きな効果をもたらすものではありません。しかし、これまでメリットを述べてきたように、点検・整備によって「安全を確保し」、「故障や事故も少なく」、「環境保全」にも対応している事業者は、社会から良いイメージで受け止められます。これからも義務である点検・整備を怠ることなく実施し、業界のイメージアップにつなげていきましょう。

